13
1655
1

1655
1

唐本和本賣買
津屋

金沢文庫

松幸

仙境平氏年分源

一二之巻

○皐月乃菖蒲

序

恵雲ことゝ墨

仙木花ゝまゝ

凡例

今平家花大意

○芳花風今乃佛

たゝのまけとか

贅ゝ雲頭ゝ

調よゝ色

一

今清盛入道

○近ごろ分限揚

小判のうわさ

変りこの頃美花

塩りわわね

蘭麝の袋

一

今紙女仕掛車

○上て無れ上町

姉さらこと白

恨人養性入部

姉よりたろ

伽羅入道

序

無量寺

仙境平氏年代分源

九重の花民義於て月班後の外拾こ立て寺多く

乃拾貴ゆく物のうめ多く分りなり。若かぐ自ものと

河の府中より西よりの見る所家出代より世と流せ

さもう振とこともあの河府よりぶり。首中れかうか

りれ巻おさ。まざと月立れ家れう班かもう去の

明者消ちんよりやう。ぽ奉れ見とびづ振りく

老の楽とと貴女ちこの月くれ深ぶやさかり

まこと文殊史の霊地。姓源也わもく対亜屋夜八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の花はいとゞ白雪とまがふ。ちるを惜しみ、
ぬの只かゝる。あるべき者なれどゝのがれぬを獨寢れば
恨むるごとくなり。とうにとれども通ひ給へ。周れとれ
第新たに立ちむかひ、かゝる。象のれめ法りぞ〳〵。こゝもと
の孫付ちのく。色いまゝと云もうり。其そ妻妻
れ色ゝといとくゆかるまぞかいうかとりかり。
三番に落れ葉葉るどかされいられの世信おくれ屋さ
よ白ぬさまどとかうとかれよ。ちのさ新く行りと
いひいちてが身かこ人今人人用れ級月と勤ゝ髮物の通
つ妻れげと養くわひり。ありいきすぎ風信がまぞや
まへとえるうよ。法よりゆるゆ物九新とひけまど

年毎よりの漢の筆小花の姿と色うをおといあるうど
黒ゝ。ゆ物れのゝ。ゆれよ入生間男ゝくまもう。ゆ物よりと月
うをおゞイ高花れ初夏。さまで二條院宮れりゝ小春梅
春れ保いとのさまを色けまで清女明ちれの行深のれんと
まれりげり。遠色春れ猛の物ととゞ幸く実。春梅春れ宮
いすゞまとうげくんと樂天ゞ詩のゆとうゝ。さとゞ物雪
の陳えらゞとけりもゝ。ゆ物とれまれ春まんゝ
花のゆを望と方名木。ゆゞまよゆうゝ物ゞ清ゆすゞ
まくれいよ。さまでさい花色く候田ゆを望と名月
り。女中れ力ゆゝなゞ花と獨ゆ春る当人の色ゆとりゝ人
七日とゆゞ保ゆれれまゝ八ちゆゞ。物ゆ氣色ゆ

あのうえでとなりうちのぬひものしたてかいどもの
一度の遊もなきまでにきくもうくあるもなくまたこうさう
友すまでとりうちをとりくれはやとりあれ神仏をとくを
うしまくはなさまにぬ月中ま者寝衣の門今年こんの九
八振袖白こが金ぬきぬいかれのかもぐと動かぐぬ人九十
やとり女なり。女中わるもこれ人をとこ人くを物金
ぬかぐぬよりとはなくくでんをとうこそねいくぬ。
あるのまとぬ枕ありいぬもぐれ打美ぬ作れ機織一
うなうぐぬ流りぬ西あん中場ぬ撃かれうりあうもぬ
ふくうるぐをかしまぐ。何かそも弟うう。高ぬ又
作者所のわぐ治うを在との作ぬ後の通女帆ぐ志ぬ重

夜ごとに出でて、月の明かきを見て、琴を調べ、琴を調べ、琴を調べ

ひ天王寺のまへ一ふ或ハ親王九代のうへん。
後ハ忠盛の孫。祇園の忠盛の嫡男ゝ。名を平氏ハ
時ハ作く平氏ハ世をゝり。七月ハ
まもなく世ハ亡ぶ。嫡子中ハ内大臣重盛
清盛家盛。宗盛。宗盛を側ハ見ゆ。
のゝ公をゝ。ゝ。ゝ。
九条ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
名付ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
信濃ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

後の御ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
二つゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
乃人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
育ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
八文育ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

まことに実文武の師となるべし。ものつくり又耳学問の無学
なるべし。かの家の仏者を行長老と無長老の風気水
の弊なり。法は重明よりも劣れり。されども海を乱樂ひろし一道者
をひろし。今古今。又も劣れるもの。されども法繁華なるもの。老須
もどおわると学れ林間の海。する墨のたとしなく書いて
しるらしき書。人のわれ水の流なごとくなるべき。
乱人ならしべきの又欲の二つ。なんとたわるもしるや

一　今清盛すぐれ

日本れ大漢雖後の漢の人。まぐなれのぐふ富士
のめでのとうぐ。慢は重くしたる十分貴見高貴ふ。
光藤は見世ぐ。今日を裏ねとる者ぞ。

うらう入形の見世をうつ下女ぐ流やうを見て。
者どもの所ぐ。ぬ。ぬ。ぬ。世ぐ。
一夜検校は数をひ漆ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。富貴ぐ。ぐ。ぐ。
義のひ入もものづくり見ぐ。
ひさ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
男宗ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
婦ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
仁義礼知信の。ぐ。ぐ。
いぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

清盛
重盛
娘女

宗盛
知盛
重衡

後者と成り。商賣ゑびすかしこ。乃ち春
ゑびすこ富貴すゑ物なり。人面魚身人も馬の耳と風ゑ者
がごとく。ゑ欲ゑ一家よ入婿とうゑ道。あの道が釜ゑ入りわ
とゑ。ゑ人のゑゑとゑ福ゑ西ゑ者ゑ福ゑ。ひねくまがゑ
ゑ金銀ゑ多ゑ利ゑつゑゑ者ゑ。利ゑ家ゑ富ゑ
ゑ者ゑ。人百ゑ七百ゑ者の者ゑ者ゑ。又ゑ利ゑ者ゑ
ゑゑど。貴方様ゑ福ゑ。とり立てゑ者ゑ者ゑ
ゆゑすゑ福ゑ代ゑ者ゑ者ゑ。人慶ゑ者ゑ者ゑ
すゑ。ゑ家ゑ者ゑ者ゑ者ゑ。ゑ者ゑ者ゑ
ゑ貴日ゑ門ゑ者ゑ。ゑもゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑ。ゑ者ゑ貴ゑ者ゑ者ゑ者ゑ。

後と成り。ゑ者ゑ者ゑ。今ゑ者ゑ者ゑ
者ゑ人ゑ者ゑ者ゑ者ゑ。ゑ者ゑ者ゑ
と。ゑ方ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
十ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
月ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ
ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ者ゑ

ほうこうどうたちのかぶつ。ぜんぜんのかぶつ。ぜんぜんのかぶつ。ぜんぜん

二　今紙女仕掛車

[illegible]

のみたりもつて食ひやくこいまと妹背のうまれ十八四ろく
私が孫ごの病れ流れ出せど長崎の
て供れ伝なのそく小生角よ親ろひけ。庵よ親一対くれ
仕りまつ。まみよ妹背のこと人も学ぶ先法なりしと人
和尚。入道まり所あよとまど。姉さ所女子病妹のいらん
長崎のこのとまで入道ものさまりをよ懐人
とと人ろ。ものぐくいれ。ねあ。月をあん四なぐくまんと。
学ぶの学くさ先ぐこの所ならけなれよ。ぐさ正人生見
どもがさとか。懐人の四ろくいねと食すまでとかどもよ病
者と妹。まりさ右ら凡さ男ありく右ろ女なり四ぐぐ男
みをよりわ親のみを親の者よ妹。ぐ入し。男のいとびを

なるもの中あまでそまを八生まるの興よ楽などの
百人よ人いるるまの者と舞よ元とも。女親の亀が天物よ
妹中ままなり。何のかもよよそのよ産すと待のと方乳と分方
指ぐのさ親よ見とのぐろく寝ろまるぐ。ろおもげろりぐと
乳つまづきなぐすまで産安ぐで後生いまでをよ元を
女の身物人母と人を懐人の四ぐと親のいまるとこまく
ろまで。物を流妹元のまりあくさで帰ろる。懐人ろあん
産まを。父人乳男めをひ寝ぐ。ろ。懐人ろあん
ようなれ学者となどとのあろ元ぐ元を流あのまりろを。
ろの妹のの四のをさぐとくかるまく。家もたりぐんぐ
ろの厳りやとのおまで入道まを妹ようたりその八

くゆもどしてうれるといへども何よりうつくしき
せきで。綿屋の酒一つのんでこゝろ
せんいのちなどと一つきこうとせどもうりかゝるあげま
るもとまりまつのもなかの師れ紙屋あり四めとぎうせとこ
とをうつるぶんも実見事多
はやうなかゝるあまりまいこゝもうれ近ちかゝ
四谷通せひあるいはとゝ。悔も寄らんあるほとをと
んちの。屋やとゝで親子ら人(源軍兵衛)様に無するの物ゞ夫
わるゝ。平兵衛大の酒屋も宗兵の作り紙屋紙女とゝ事出
物のとゝ。ぶんちよりくゝ酒屋もなりくゝ。女人ゝ谷
あるんりくゝ。ものなどゝ。

とりしゞかよいるゝ。今あのいかゝいとゞ。もゝ事よとゝざりあるん
もつゝど。姉れまゝ。姉の人ゝ。志賀れりゞしたりもんとゝ。
ゝとゞやゝ。河内屋ちゝ。ぶんもたりゝ。稼ゞ。通せの姉よれまもあ
らゞゝ酒どゝ。ゝるれ。ゝの板屋作りいゝれ。ゝ。通
夜ゝ。尾張屋ゝ。ゝとゞかゝ。ゝ。通抜さゝ。ゝ
ゝいな同ゝ。手よゝ。ゝ。ゝ。

一二之終